



# 農福連携による障がい者の社会参加を支援する 小型ストレスコーピング機器の開発

1915026 北田真悟 情報基盤工学講座 指導教員 奥原浩之

## 要約

生命科学分野において、テキストマイニングを用いて、データベースに日々蓄積されていく遺伝子データから、遺伝子・タンパク質間の関係性や相互作用を見出すことの重要性は依然として強い。本研究ではある生物が持つたんばく質の共起関係を抽出し、それらの関係性を3Dグラフに可視化する。そして、得られた関係性について、さらなる分析を行うための支援を目的とする。

### キーワード：

遺伝子データベース、スクレイピング、テキストマイニング、共起ネットワーク、可視化

## 1 はじめに

IoTとは、Internet of Thingsの略称であり、モノのインターネットと呼ばれている。従来では、コンピュータ同士の接続という認識があったが、技術の向上により、スマートフォンやタブレット端末でも接続が可能になった。また、近年ではエアコンのスイッチの切り替えや、照明機器の制御においてもスマートフォンを用いて操作することが可能になったため、家にいなくても外からの制御が可能になった。IoTの技術が進む中で、IoTの活用という面における要望が届くこともある。その中には、障がい者関連団体からの要望も少なくない。具体例としては、社会参加のための公共交通機関の移動補助や、職員と利用者の行動記録の自動化などが挙げられる。このような雇用に関する面では、障がい者雇用促進法による求人開拓や職業リハビリテーションの推進といった障がい者が安心して就業できるための法律が整備されてきた。しかし、障がい者は社会活動の場においてストレスを感じやすく、メンタルヘルスケアの需要が増し、社会活動を行うために情報面および物理面の障壁を減らすといった課題が存在する。

## - 2 小型ICT機器の開発 -

### 2.1 IoT機器の構成とデザイン

先行研究では、Arduino nanoとRaspberry Pi WHに加え、複数のセンサを取り付けた小型ウェアラブル装置を使用した。また Raspberry Pi Zero WHには、装置を使用する環境の静止画像を取得するためのカメラモジュールと、音声入力を行うための Respeaker hatを取り付けた。機器を小型化させたことにより、装置を装着したときに感じる違和感や、普段通りの行動が制限されるといった点から発生するストレスを軽減させることが可能となった。さらに、各生体情報を収集するために必要なセンサは、ユニバーサル基盤にはんだ付けを行った。はんだ付けを行うことでセンサを固定し、装着した状態で行動してもセンサが外れてしまうといった問題を解決することに成功した。また、センサを取り付けたユニバーサル基盤について、Raspberry Pi Zero WHなどの別の装置との有線接続が不安定であったため、3Dプリンターでケースを作成し、安定して装置を接続させることができた。

### 2.2 コーピングの内容決定

先行研究の手法では、ストレス値が一定のしきい値を上回ったときに、HTMLによる視覚的な手法とウェアラブル装置に搭載されたイヤホンからの音声出力を使用する聴覚による手法を用いてコーピング指示を行っていた。HTMLを用いた手法では、文字やストレス値に応じた画像で、装着者のストレス状態を容易に把握することができるようとした。一方で、イヤホンからの音声出力では、装着者の状況に応じた文章が音声出力されるようになっている。また、データを収集した後に行う行動識別では、対象となるデータ群から最も似たデータをまとめ、クラスター数を減らす階層的クラスター分析を用いる。また、デンドログラムを用いることでまとめたデータを視覚的に確認することができる。

### 2.3 短期と中長期ストレスとの関連

短期ストレスの測定は、ウェアラブル装置を用いて測定するが、中長期ストレスには、ストレスチェックシートを使用する。このストレスチェックシートには、「国が推奨する57項目の質問票」を使用する。この質問票には、ストレスチェックに必要な「仕事のストレス原因」、「心身のストレス反応」、「周囲のサポート」の3種類をすべて含むことに加え、回答時間も短いため、手短に調査できる利点が挙げられる。

## - 3 農業と福祉の連携 -

### 3.1 障がい者の社会進出

農福連携とは、障がい者等が農業分野における活動を経験することで、自身や生きがいを持って社会参画を実現する取り組みである。近年では、客観的な利点の提示や取り組み内容を公開することで認知度を向上させることや、相談窓口の整備、マニュアルの充実などを通じて取り組みを促進させることで、農福連携の推進が行われている。また、対象となる障がい者は、就労支援継続A型またはB型に分けられる。本研究では、就労支援継続B型に該当する障がい者を対象とする。

3.2 障がい者とストレス 作業をするにあたって、作業内容や人間関係からストレスとなる要因が生まれることがある。このストレスを溜め続けると、今後の作業が普段通りに進められないことや、人間関係に支障をきたすといった問題が発生してしまうことが挙げられる。

## - 4 提案手法 -

## - 5 数値実験並びに考察 -

## - 6 おわりに -

## 参考文献